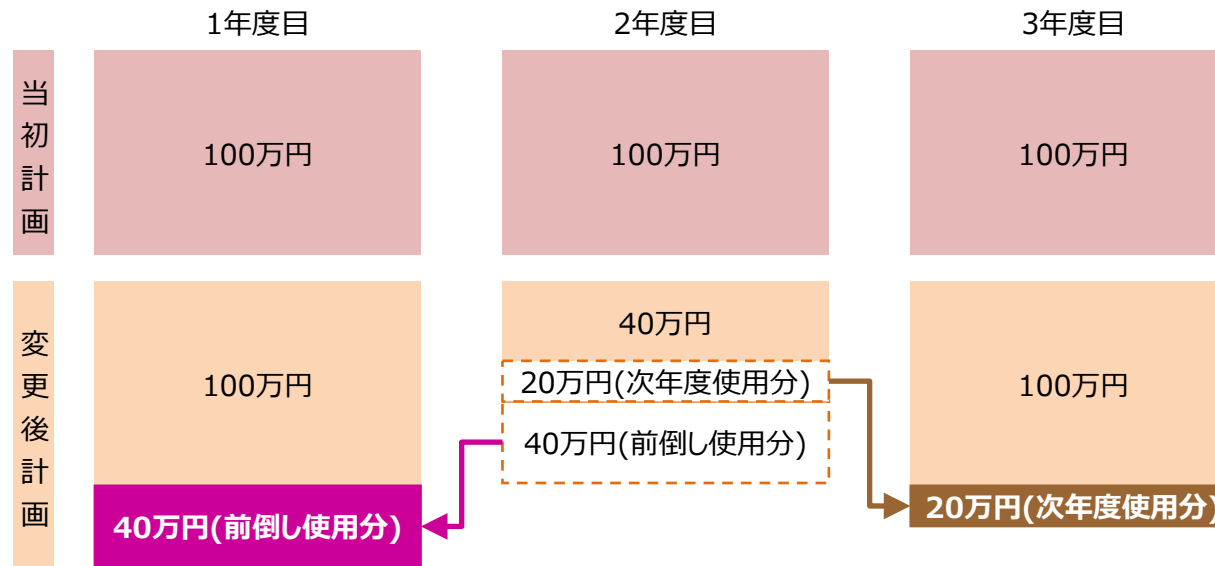


基盤研究（B）の基金化について

基金化による研究費の使用イメージ

- 会計年度の制約がないため、研究費の柔軟な執行が可能。

研究費総額の範囲内で研究の進展に合わせた研究費の**前倒し使用**や、事前の繰越手続のない**次年度使用**が可能。



研究費の前倒し使用

例. 研究が予定以上に進展したため、2年度目以降に実施予定である〇〇実験の予備実験を前倒し、1年度目から着手。

研究費の次年度使用

例. 他研究グループの発表内容を踏まえ、2年度目に実施予定の〇〇解析の手法見直しが必要となった。2年度目は手法の再考期間とし、解析は3年度目に実施。

その他、基金化によるメリット

- 研究とライフイベントの両立。

研究費を柔軟に使用できるため、妊娠、出産、育児などのライフイベントによる、研究の一時的な中断や、再開後の研究の加速などに対応可能。

- 研究者の研究時間の確保、研究機関の事務負担の軽減。

毎年度の交付申請手続や、年度単位での研究費の精算や返金の手続き等が不要。

- 会計年度を意識することなく、海外研究者との国際共同研究に参加しやすい環境に。

日本側研究者がイニシアチブを取って国際共同研究の相手国・相手側研究者と調整を行うことが可能となるなど、研究の進展に合わせた執行が可能。